

土地改良事業変更計画概要書

事業名：区画整理事業
 地区名：稲屋敷・袋
 所在地：栗原市
 事業主体：宮城県

I. 変更理由

本地区は、宮城県の北部にあり、栗原市栗駒・鶯沢に位置する稲作を中心とした水田地帯である。
 平成30年度に農業競争力強化農地整備事業稲屋敷・袋地区として採択され事業着手したが、下記項目の変更が生じたことに伴い土地改良事業計画の変更を行うものである。

1) 地区面積A=0.1haの増

- ・地区編入によるA=0.0ha(489.99m²)の増
- ・地区除外によるA=0.0ha(195.00m²)の減
- ・精査に伴うA=0.2ha(1,922.00m²)の増
- ・精査に伴うA=0.1ha(1,779.67m²)の減

2) 受益面積A=1.6haの減

- ・地区除外によるA=0.0ha(82.00m²)の減
- ・道水路減歩面積の増による受益面積A=1.6haの減
 施設計画の変更により道水路等の施設面積が増えたことにより受益面積の減となった。

3) 施設計画の変更

- ・整地工・・・受益面積の変更によりA=1.6haの減
- ・道路工・・・道路配置の変更によりL=2,060mの増、橋梁工1基の減
- ・用水路工・・・水路配置の変更によりL=898mの減
- ・排水路工・・・水路配置の変更によりL=833mの増
- ・暗渠排水工・・・水田面積の変更によるA=1.7haの減

II. 変更内容

1. 地積の変更

(1) 地積

区分 地目	変更前		変更後		備考
	現況	計画	現況	計画	
田	145.9 ha	144.9 ha	146.0 ha	143.2 ha	
畑	0.1	0.0	0.1	0.1	
小計	146.0	144.9	146.1	143.3	
道水路、その他	12.4	13.5	12.4	15.2	
合計	158.4	158.4	158.5	158.5	

2. 主要工事計画の変更

(1) 事業目的別面積の変更

種別	変更前	変更後	備考
1. 区画整理	158.4 ha	158.5 ha	
① 整地工	144.9 ha	143.3 ha	
② 道路工	11,467 m	13,527 m	
③ 用水路工	10,883 m	9,985 m	
④ 排水路工	7,537 m	8,370 m	
2. 暗渠排水	144.9 ha	143.2 ha	
3. 客土	- ha	- ha	

3. 事業量の変更

(単位：千円)

工 種	変 更 前		変 更 後		増 減	
	事 業 量	事 業 費	事 業 量	事 業 費	事 業 量	事 業 費
純工事費		1,884,000		2,013,000		129,000
区画整理工	158.4 ha	1,439,000	158.5 ha	1,772,000	0.1 ha	333,000
整地工	144.9 ha	336,000	143.3 ha	469,000	▲1.6 ha	133,000
道路工	11,467 m	311,000	13,527 m	224,000	2,060 m	▲87,000
水路工	18,420 m	792,000	18,355 m	1,079,000	▲65 m	287,000
用水	10,883 m	423,000	9,985 m	422,000	▲898 m	▲1,000
排水	7,537 m	369,000	8,370 m	657,000	833 m	288,000
暗渠排水工	144.9 ha	445,000	143.2 ha	241,000	▲1.7 ha	▲204,000
客土工	- ha	-	- ha	-	- ha	-
測量試験費	- 式	190,000	- 式	162,000	- 式	▲28,000
用地補償費	- 式	79,000	- 式	15,000	- 式	▲64,000
換 地 費	- 式	116,000	- 式	120,000	- 式	4,000
営 繕 費	- 式	-	- 式	-	- 式	-
その他経費小計		385,000		297,000		▲88,000
事業費合計		2,269,000		2,310,000		41,000

事務的経費	- 式	113,000	- 式	115,300	- 式	2,300
-------	-----	---------	-----	---------	-----	-------

総事業費		2,382,000		2,425,300		43,300
------	--	-----------	--	-----------	--	--------

4. その他

(1) 工事予定期間

変更前				変更後				備 考
着手	平成	30	年度	着手	平成	30	年度	
完了	令和	7	年度	完了	令和	7	年度	

(2) 事業費の変動率

$$C = \frac{\text{変更後事業費} - (\text{変更前確定総事業費} + \text{自然増額} + \text{請負差額} + \text{コスト縮減})}{\text{変更前確定総事業費}} \times 100$$

$$= \frac{2,310,000 - (2,269,000 + 302,800 + \blacktriangle 199,000 + -)}{2,269,000} \times 100$$

$$= \blacktriangle 2.8 \%$$

自然増額： 302,800 千円
 請負差額： ▲199,000 千円
 コスト縮減額： - 千円

※上記変動率は、事務的経費を除いた変動率

目 次

第一章	目 的	的
第二章	地域の所在及び現況	況
第三章	基本計画	画
第四章	工事又は管理の要領	領
第五章	換地計画の要領	領
第六章	費用の概算	算
第七章	効用の関係	用
第八章	他の事業との関係	係
第九章	計画概要	要 図

第一章 目 的

本地域は、宮城県の北部栗原市、旧栗駒町と旧鶯沢町に位置し、北側に国道457号線・南側に市道島巡祝田線と一級河川二迫川・東側には県道栗駒公園線があり、地区中心には幹線排水路である高松川（下流は一級河川熊川）が流下しており、左右岸に展開する稲作を中心とした水田地帯である。

地区内の現況ほ場は、昭和34年度完成の団体営事業にて10a区画で整備されたが、末端水路は用排水兼用水路が多く、土水路で底高も浅く常に湿潤状態を呈しており、水管理に苦慮している状況にある。また、農道幅員が狭小であることから、大型機械の導入が困難で多くの労力を必要とし、生産性が低く近代的農業経営に支障をきたしている状況にある。

そこで、本事業により、ほ場・道路・用排水路・暗渠排水等の整備を行い、耕地の汎用化・水管理の合理化を図るとともに、農地の利用集積と経営体の育成・支援を一体的に行い、効率的かつ安定的な農業の確立を目指すものである。

第二章 地域の所在および現況

第1節 地 域

宮城県栗原市栗駒・鶯沢

第2節 地 積

市町村名 \ 現況地目	田	畑	小 計	その他	計	備 考
	ha	ha	ha	ha	ha	
栗 原 市	145.9 146.0	0.1 0.1	146.0 146.1	12.4 12.4	158.4 158.5	
計	145.9 146.0	0.1 0.1	146.0 146.1	12.4 12.4	158.4 158.5	

第3節 現 況

第1項 地 形

本地区は、地形的に東西に傾斜しており、地区中心には幹線排水路である高松川（下流は一級河川熊川）が流下しており、左右岸に展開する稲作を中心とした水田地帯である。地区の傾斜は1/60～1/8, 200程度（主傾斜1/350）の傾斜を有している。受益地の標高はTP22. 81～TP29. 44である。

第2項 地 質、土 壤

本地区の地質は、第四系完新統未固結堆積物より形成され、土壌は下記のとおりである。

土 壤 状 況							
番 号	A2	D30	D31	E43	F51		計
土壌統区名	泥炭土壌 強粘土還元型	強グライ土壌 強粘土還元型	強グライ土壌 強粘土斑鉄型	グライ土壌壤土型	灰色土壌 粘土マンガン型		-
面 積 (ha)	11.6	40.1	41.6	1.4	51.2		145.9
	(-)	(-)	(-)	(-)	(0.1)		(0.1)
	11.6	40.2	41.6	1.4	51.2		146.0
	(-)	(-)	(-)	(-)	(0.1)		(0.1)
地形・傾斜	1/60～1/8, 200 (1/350)						-
乾 湿	湿	湿	湿	半湿	乾田		-

面積の下段()は普通畑

第3項 一般気象

観 測 所 名	築 館 観 測 所		自平成17年～至平成26年	
	かんがい期5～8月	非かんがい期9～4月	計又は平均	備 考
平均気温	20.2℃	6.9℃	11.3℃	
降水量	534.6mm	671.2mm	1,205.6mm	
根雪期間	無霜期間	最多風向	最大風速	積算温度
11月30日～3月23日 114日間	4月13日～11月3日 205日間	W	-	-

第4項 特殊気象

単位：雨量：mm 旱天日数：日

観 測 所 名	築 館 観 測 所									
	第 一 位		第 二 位		第 三 位		第 四 位		第 五 位	
自平成18年 至平成26年	数 量	年 月 日	数 量	年 月 日	数 量	年 月 日	数 量	年 月 日	数 量	年 月 日
最大日雨量(mm)	335	S23.9.16	194	S19.7.19	159	H25.7.26	154	H21.10.8	153	S61.8.5
2日連続雨量	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3日連続雨量	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
最大連続雨量(mm)	346	S23.9.15	324	S19.7.18	318	S31.6.15	304	S33.7.19	273	S22.9.7
最大連続旱天日数	65	H25.1.28	60	S28.1.1	59	S62.1.18	54	H11.1.1	53	S62.3.25
積雪量	-		最大凍結深			-				

第五章 換地計画の要領

第1節 換地計画樹立の必要性

本地区の農地は、10a区画で整備されているが、耕作道路も狭少で末端水路は殆どが用排兼用の土水路のため、合理的な水管理や大型機械による省力化等が進まず近代的営農への転換に支障をきたしている。また、分散した農地が多いため効率的な農作業ができない状況にある。

よって、本事業を契機に農地の生産基盤である区画形質の改善、用排水路・農道の整備、換地による農地の集団化を総合的に実施し、農業機械の効率的な作業と適正な水管理を行いうる生産性の高い条件に整備することとしているため、工事完了後の区画に対応した権利関係の再編を行う換地計画を必要とする。

第2節 換地計画樹立の基本方針

(1) 従前地の地積の基準

換地交付の基準とする従前の土地の地積は、土地改良事業計画決定の日の登記簿地積とする。ただし、上記の日から3ヶ月以内に測量士、測量士補又は土地家屋調査士の測量した実測図及び隣接所有者の同意書を添付して申し出があった場合、若しくはそれと同等の実測図面が提出され、換地委員会が適当と認めた場合は、その申し出があった地積とする。

(2) 農用地集団化の方法

区分	地帯別・グループ 別団地の設定	個人別換地の方法		
		位置設定	1戸当り目標団地数	区画畦畔の取扱い
稲屋敷・袋	集落別の集団化とともに担い手農家の所有農地が面的集積の核となるように集団化を図り、大区画の効用を十分に発揮できるように配慮する。	個人別の位置については、各人の従前の土地の利用等を考慮して集団化を図るが、担い手農家による生産集積が行われ易いように集団化を図り、大区画の効用を十分に発揮できるように配慮するものとする。	1.5 1.5 団地	区画畦畔の取り扱いについては、大区画の機能を損なわないよう固定畦畔とし、分割する場合には畦畔を築立せず杭による分割表示を基本とする。

(3) 非農用地の換地方針
該当なしに付き省略

換地区	用途	非農用地区域の 位置	面積 (㎡)	換地の手法	換地 取得予定者
	計				

(4) 清算の方法

比例地積清算方式による。

第3節 土地改良法第5条第6項に規定する国有地等の編入承認にかかる事項

(単位 : ha)

区分	公用公共用地				一般国有地	合計
	国有地	県有地	市町村有地	計		
道路	-	-	6.0	6.0	-	6.0
	-	-	6.0	6.0	-	6.0
水路	0.0	0.0	6.4	6.4	-	6.4
	0.1	0.0	6.3	6.4	-	6.4
計	0.0	0.0	12.4	12.4	-	12.4
	0.1	0.0	12.3	12.4	-	12.4

第六章 費用の概算

	(2,382,000)		
	(2,425,300)		() は事務的経費を含む
	2,269,000		
一金	2,310,000	千円也	

第七章 効 用

項 目 区 分	年総効果（便益）額 （千円）	年増加農業所得額 （千円）	備 考
作物生産効果	49,861 61,195	13,039 2,781	H29年度単価 R6年度単価
営農経費節減効果	137,730 195,202	142,128 198,831	
維持管理費節減効果	3,533 1,855	8,736 10,488	
耕作放棄防止効果	0 5	- -	
景観・環境保全効果	- 1,297	- -	
国産農産物安定供給効果	9,406 14,345	- -	
計	200,530 273,899	163,903 212,100	

(参考) 総費用額 2,800 百万円
総便益額 3,629 百万円

(参考) 総費用額 3,995 百万円
総便益額 5,051 百万円

第八章 他の事業との関係

項目 区分	事 業 名	事 業 主 体	受益面積 (ha)	備 考
異種	国営かんがい排水事業 迫川上流地区	国	10,437.7 (144.9) 10,437.7 (143.2)	ダム、頭首工、幹線用水路
異種	国附県営かんがい 排水事業 迫川上流4期地区	宮城県	989.0 (144.9) 989.0 (143.2)	用水路

() 地区内受益及び流域

第九章 計画概要図

別 紙 参 照

農業競争力強化農地整備事業(農地整備事業(経営体育成型))

計画一般図

稲屋敷・袋地区

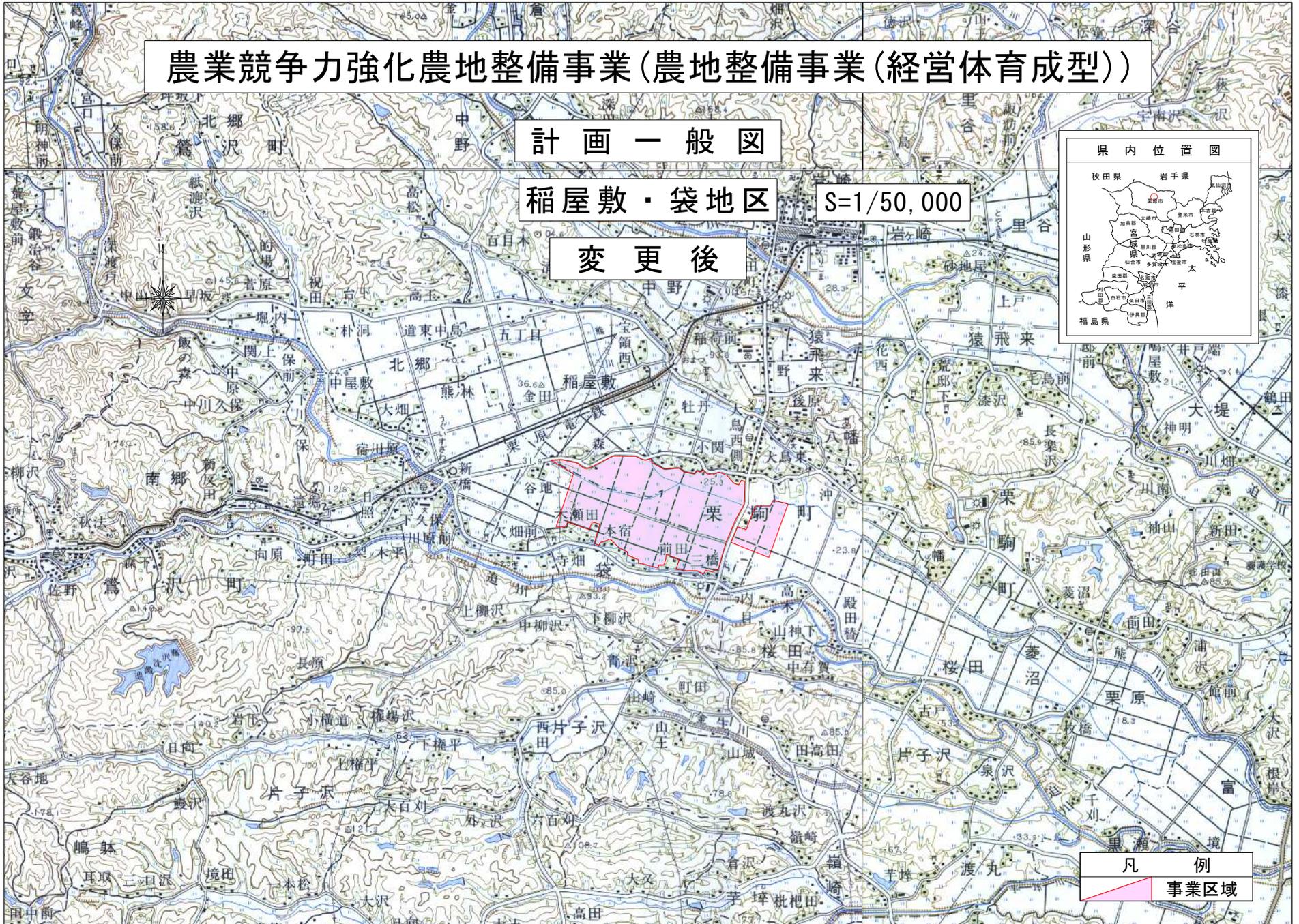
S=1/50,000

変更後

県内位置図



凡例
事業区域



農業競争力強化農地整備事業 農地整備事業（経営体育成型）稲屋敷・袋地区

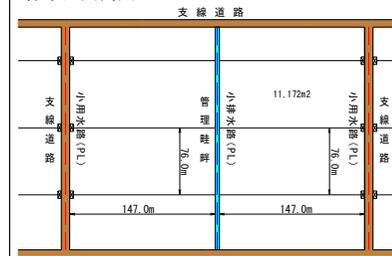
計画概要図

変更後

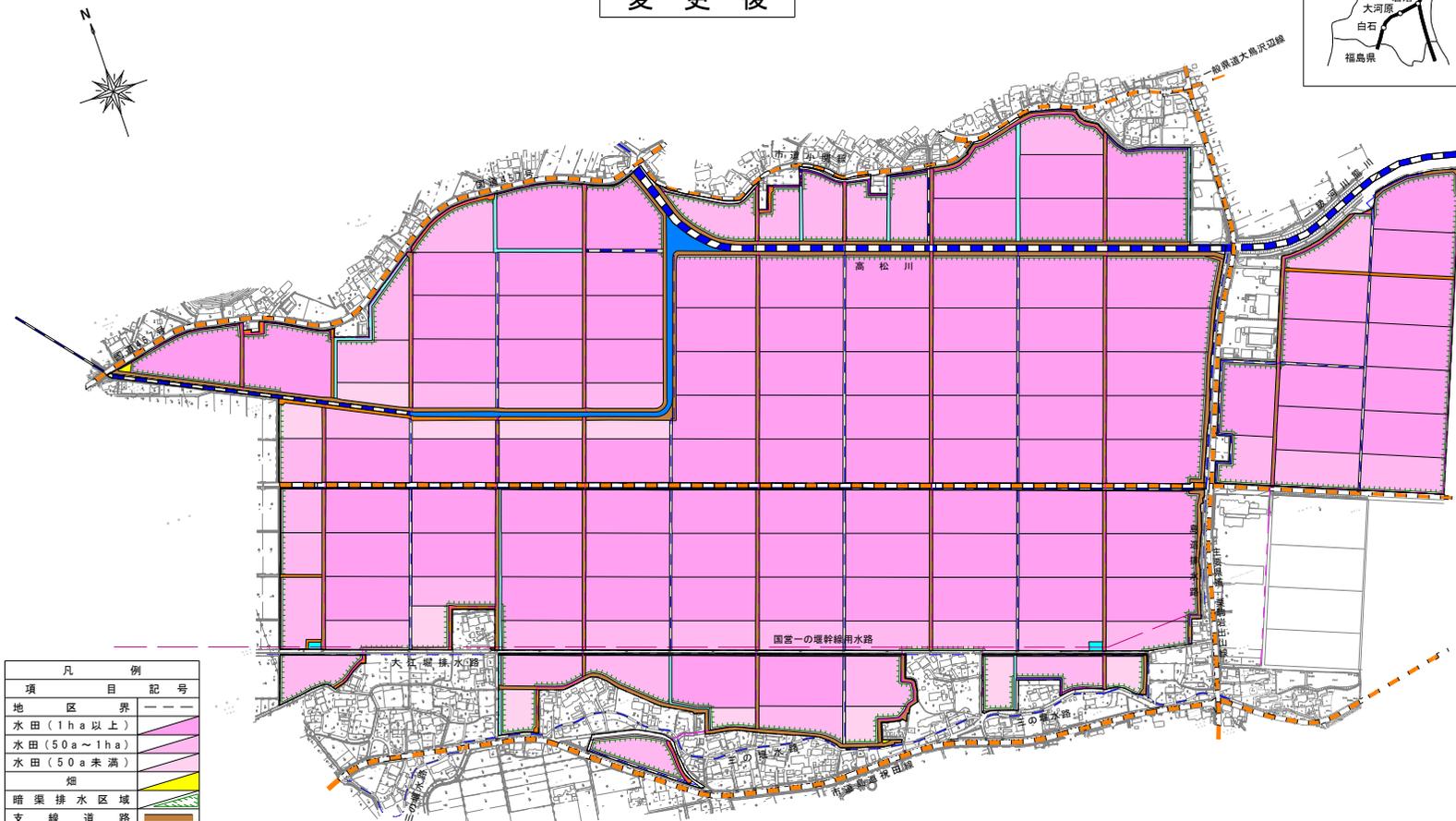
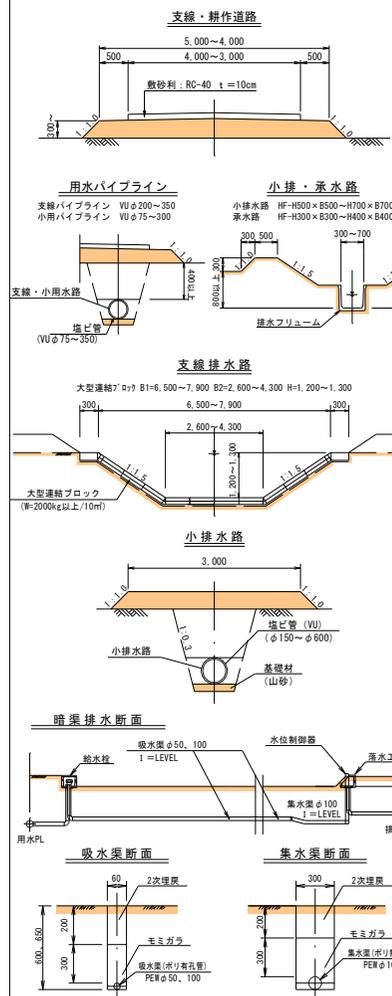
位置図



標準区画分割



標準構造図



凡例	記号
地区界	---
水田 (1ha以上)	■
水田 (50a~1ha)	■
水田 (50a未満)	■
畑	■
暗渠排水区域	■
支線道路	■
耕作道路	■
用水パイプライン	■
支線排水路	■
小排水路	■
承水路	■
排水パイプライン	■
既設道路	■
既設排水路	■
一の堰幹線用水路	■

農業競争力強化農地整備事業（農地整備事業） 稲屋敷・袋地区

変更内容図

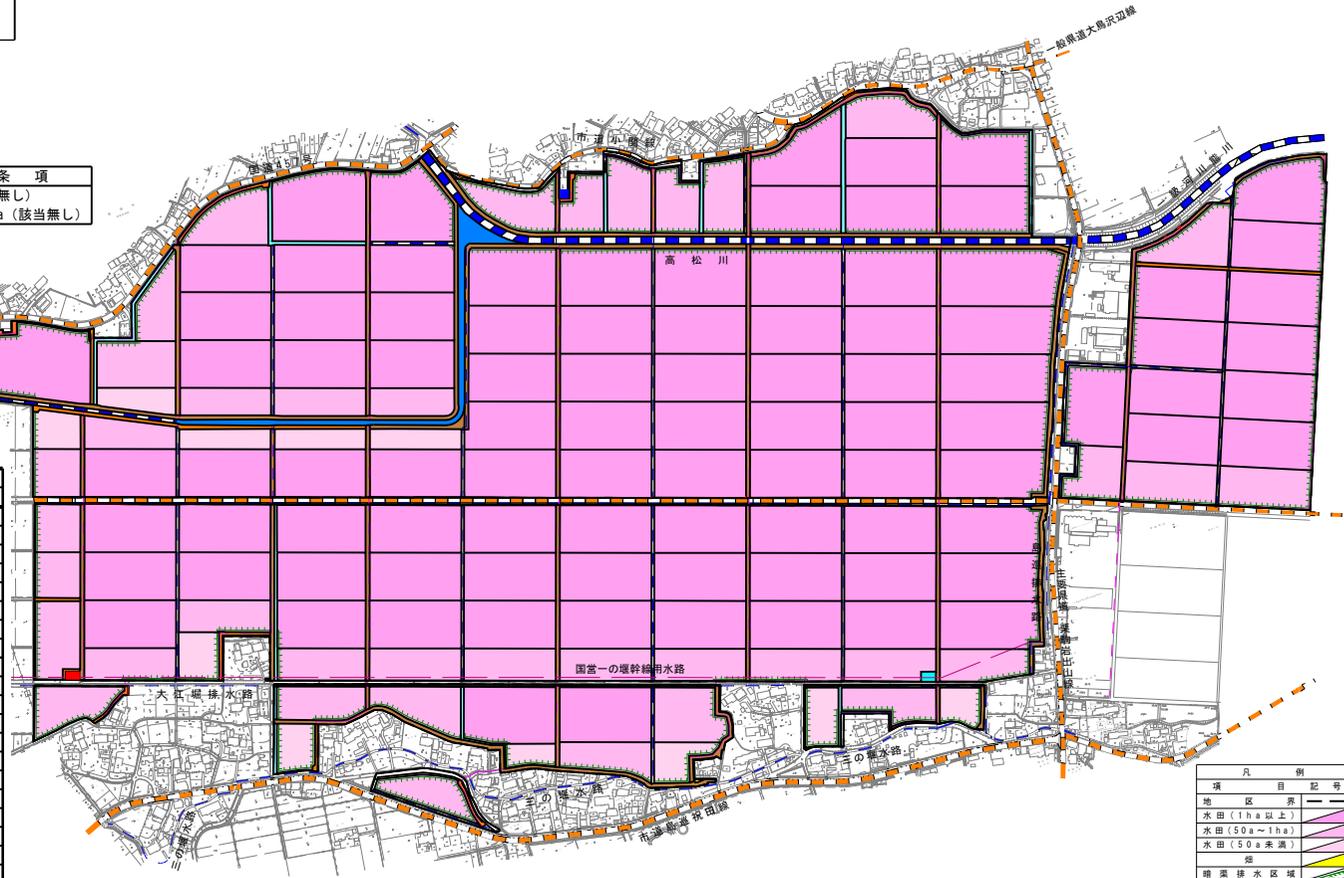
【地積（地区面積）の変更】

地区面積 A= 158.4ha（変更前）	計 画 変 更 該 当 条 項
地区面積 A= 158.5ha（変更後）	
A= 0.1haの増	
地区編入A=0.0ha+精査増A=0.2ha	地積の10%以上の増 0.1% < 10%（該当無し）
地区除外A=▲0.0ha+精査減A=▲0.1ha	地積の10%以上の減 0.1% < 10%（該当無し）

凡 例	
項 目	記 号
地 区 界	——
地 区 編 入	——
地 区 除 外	——

【主要工事計画の変更】

変 更 前	変 更 後	増 減	計 画 変 更 該 当 条 項	
暗渠排水	144.9ha	143.2ha	▲1.7ha	受益面積の20%以上 1.2% < 20%（該当無し） 100ha以上の追加又は廃止 1.7ha < 100ha（該当無し）



工 種	変 更 前		変 更 後		増 減	
	事業量	事業費	事業量	事業費	事業量	事業費
純工事費		1,884,000		2,013,000		129,000
1. 区画整理	158.4ha	1,439,000	158.5ha	1,772,000	0.1ha	333,000
①整地工	144.9ha	336,000	143.3ha	469,000	▲1.6ha	133,000
整地	144.9ha	309,000	143.3ha	467,000	▲1.6ha	158,200
表土扱い	11.5ha	26,700	1.2ha	1,500	▲10.3ha	▲25,200
②道路工	11,467m	311,000	13,527m	224,000	2,060m	▲87,000
支線	11,467m	215,000	13,527m	224,000	2,060m	9,000
橋梁工	1所	96,000	- 所	-	▲1所	▲96,000
③用水路工	10,883m	423,000	9,985m	422,000	▲898m	▲1,000
支線	2,262m	62,000	3,081m	128,000	819m	66,000
小	8,621m	361,000	6,904m	294,000	1,717m	▲67,000
④排水路工	7,537m	369,000	8,370m	657,000	833m	288,000
支線	762m	92,000	756m	293,000	▲6m	200,800
小	6,775m	276,000	7,614m	364,000	839m	87,200
2. 暗渠排水	144.9ha	445,000	143.2ha	241,000	▲1.7ha	▲204,000
3. 客土	- ha	-	- ha	-	- ha	-
測量試験費	1式	190,000	1式	162,000	1式	▲28,000
用地補償費	1式	79,000	1式	15,000	1式	▲64,000
換地費	1式	116,000	1式	120,000	1式	4,000
営繕費	1式	-	1式	-	1式	-
その他経費小計		385,000		297,000		▲88,000
合 計		2,269,000		2,310,000		41,000
事務的経費	1式	113,000	1式	115,300	1式	2,300
生産基盤合計		2,382,000		2,425,300		43,300

凡 例	
項 目	記 号
地 区 界	——
水田 (1ha以上)	■
水田 (50a~1ha)	■
水田 (50a未満)	■
畑	■
暗渠排水区域	■
支線排水路	——
幹線排水路	——
用水パイプライン	——
支線排水路	——
小排水路	——
承水路	——
排水パイプライン	——
既設排水路	——
既設排水路	——
一の堰幹線用水路	——